

# 図画工作科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校

教諭 〇〇 〇〇

1 日時・場所 平成20年10月〇日 (〇)

2 学年・学級 第5学年〇組

3 題材名 「春が来るまで ～ガーデンピックに願いをこめて～」【A表現(2)】

4 題材について

- 5年生は、総合的な学習の時間で「〇〇小☆魅力アップ大作戦」をテーマに、花いっぱいの学校にしようと花の栽培活動に取り組んでいる。これまで様々な花を植えてきたが、花の世話や手入れから気持ちが離れ、花を咲かせることができないことがあったり、花を枯らしてしまったりすることもあった。「花いっぱいの学校にしたい」という思いはあるが、その思いが行動に結びつきにくい児童も多く、自分たちが花を育てて咲かせていくという意識もだんだん薄くなってきている。そこで、図画工作科で総合的な学習の時間と結びつけた題材を仕組み、双方のねらいが深まるような取組をすることにした。

本題材は、花が咲くまでの間、花を見守り、見る人を喜ばせるように、願いをこめてガーデンピックをつくるという造形活動である。そのガーデンピックは、ペットボトルでつくった手作りのフラワーポットに添え、自分たちで種をまき、学校のフェンスに飾りたいと考えている。本題材では、「寒い冬の間も、花が元気に育ちますように。」「花が咲くまでの間、さみしくならないように楽しませてあげるよ。」「花も見守る人も笑顔になりますように。」など、自分が育てる花への思いや見てくれる人への思いをふくらませながら発想を広げ、自分の思いを工夫して表現できるようにしたい。また、ガーデンピックを添えたフラワーポットを効果的に飾り、魅力アップした学校をみんなで鑑賞することを通して、友だちの表現のよさを感じるとともに、つくりだす喜びを味わえるのではないかと考える。材料はカラーボードや紙粘土など加工しやすい材料を中心に使い、これまでの材料経験や造形感覚を生かし、創造的な技能を働かせながら表現できるようにしたい。

このような造形活動を通して、今まで薄かった花への気持ちや魅力アップ大作戦への意欲が高まり、総合的な学習の時間のねらいにも迫ることが期待できる。また、学校を訪れる人々や学校で過ごす人々がガーデンピックを見て喜ぶ姿や、自分たちの作品で魅力アップした学校、ガーデンピックに見守られながら花が元気に育つ様子などを思い浮かべながらつくっていく過程で、人や花へのやさしい気持ちやていねいに物事に向かう姿勢が育まれることを願っている。

- 本学級の児童は、図画工作科の学習に意欲的である。豊かな発想で自分なりの表し方を楽しみながら工夫して表現する児童や、友だちの表現に興味を持ち友だちのよさを自分の表現に生かして表現しようとする児童もいる。しかし、自分の表したいことが思いつかず自分の表現に自信が持てない児童や、表現意欲はあるが、細かい作業や用具の扱いが苦手で、思いのままに表現できない児童もいる。また、いろいろな材料や用具を自分の表現に積極的に取り入れようとするが、表現の目的に合わせて材料や用具を選択することが難しい児童もいる。

- 指導にあたっては、自分の願いがふくらみ、豊かな発想が広がるように、実際にフラワーポッ

トを飾る場所に行って、構想を立てるようにする。そうすることで、どのような願いを、どのような表現方法で表していくか、具体的なイメージを持つことができるのではないかと考える。発想が広がりにくい児童には、児童の思いに寄り添い、相談に乗ったり一緒に考えたりしながら、表したいことを自分で見つけられるように支援していく。また、参考となる作品を用意し、表現のヒントが得られるようにしたい。細かい作業や用具の扱いが苦手な児童には、困っていることに共感しながら、どうすればうまくできるか一緒に考え、できるだけ自分で解決できるように支援していきたい。材料や用具については、比較的扱いやすいものとし、材料や用具の特徴を生かして選択できるよう、多様な材料・用具を用意しておきたい。活動中は、児童の活動を見守りながら、励ましほめる声かけを積極的に行い、少しでも自信につながるようにしたい。また、題材に向かう過程をしっかりと見取り、評価していきたい。

## 5 題材の目標

- 花も見る人も喜ぶようなガーデンピックを、願いをこめてつくる活動を楽しもうとする。  
(造形への関心・意欲・態度)
- 花を見守り、見る人を喜ばせるガーデンピックを豊かに発想し、材料や表現方法を考えながら構想する。  
(発想や構想の能力)
- 自分のつくりたいイメージに合わせて、材料や用具を使って、表し方を工夫しながらつくる。  
(創造的な技能)
- ガーデンピックを添えたフラワーポットを効果的に飾り、友達の表現のよさやそれにこめられた願いを感じ取る。  
(鑑賞の能力)

## 6 評価規準

観点	題材の評価規準	学習活動における具体的評価基準
ア 造形への関心・意欲・態度	花も見る人も喜ぶようなガーデンピックを、思いをふくらませながら願いをこめてつくる楽しさを味わおうとする。	① 自分がつくったガーデンピックで花や見る人が喜ぶ様子を思い浮かべながら、願いをこめてつくることを楽しもうとする。
イ 発想や構想の能力	花を見守り、見る人を喜ばせるガーデンピックを豊かに発想し、材料や表現方法を考えながら構想する。	① 見守られる花や見て喜ぶ人の気持ちになってつくりたいものを構想する。
ウ 創造的な技能	自分のつくりたいイメージに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使い、表し方を工夫しながらつくる。	① 自分の構想をもとに、材料や用具の特徴を生かして選び、自分なりの表し方を工夫する。
エ 鑑賞の能力	ガーデンピックを添えたフラワーポットを効果的に飾り、友だちの表現のよさやそれにこめられた願いを感じ取る。	① 全体の美しさや色のバランスなどを考えながらフラワーポットを飾り、友だちの表し方のよさを見つけたり、作品にこめられた願いについて伝え合ったりする。

7 指導と評価の計画（全3時間）

時間	学習活動	支援・留意点	評価規準・方法
帯 タイム 15 分	春が来るまで ～ガーデンピックに願いをこめて～		
	冬の間、自分かわりに花を見守り、見る人を喜ばせるようなガーデンピックを考え、アイデアスケッチをかく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな発想が広がるように、実際にフラワーポットを飾る場所に行って導入する。</li> <li>飾る場所や中心材料を伝える。</li> <li>見守られる花や見る人の気持ちを考えながら構想を練るよう伝える。</li> </ul>	イー① アイデアスケッチ・対話
第 一 次 2 時 間 ( 本 時 1 / 2 時 間 )	つくりたいイメージに合わせて、必要な材料や用具を選び、自分なりの表し方を工夫してガーデンピックをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>途中でつくりたいものがかわってもよいことを伝える。</li> <li>発想が広がりにくい児童のために表現のヒントとなるものを用意しておく。</li> <li>雨にぬれても大丈夫な補助材料を用意しておく。</li> <li>自信につながる声かけを行う。</li> </ul>	アー① 児童の観察（表情・反応・つぶやき・取り組む態度） ウー① つくりつつある作品・対話・活動の様子
第 二 次 1 時 間	集まれ！ガーデンピックのなかまたち ～魅力アップ大作戦～		
	種をまいたフラワーポットに自分のつくったガーデンピックを立ててフェンスに飾る。  魅力アップした様子を味わいながら、ガーデンピックを鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の美しさや色のバランスなどを考えながら飾ることができるよう、飾る時間をしっかり保障する。</li> <li>作品のよさ、ガーデンピックにこめられた願いをみんなで共有できるように、鑑賞後に伝え合う場を設定する。</li> </ul>	エー① 活動の様子・対話・発表

8 本時の目標

- 花や見る人が喜ぶ様子を思い浮かべながら、自分の願いが届くように、心をこめてつくることを楽しもうとする。
- 自分の構想をもとに、自分の表現に適した材料や用具を選んで使い、自分なりの表し方を工夫しながらつくる。

9 準備物

(指導者)	○材料・・・カラーボード、プラスチック板、紙粘土、竹ひご、針金、ビーズなど ※雨にぬれてもよい材料 ○用具・・・接着剤、カッターナイフ、カッター板、ペンチ、粘土板、粘土べら、きり、油性ペンなど
(児童)	接着剤、はさみ、絵の具、自分で持ってきた材料 アイデアスケッチ

10 本時の展開

学習活動	教師の支援 *努力を要すると判断される児童への支援	評価規準・評価方法
<p>1 本時の学習内容を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「春が来るまで ～ガーデンピックに願いをこめて～」 花を見守り、見る人を喜ばせるガーデンピックを、願いをこめてつくろう。</p> </div> <p>○ 題材名や本時のめあて、使う材料や用具について知る。</p>	<p>○ 本時のねらいを示す。 ○ 花や見る人への思いや願いをふくらませ、その願いが叶うように心をこめてつくろうとする意欲が持てるように導入する。</p>	
<p>2 自分の思いをふくらませながら、材料や表し方を工夫してガーデンピックをつくる。</p> <p>○ アイデアスケッチをもとに、必要な材料を選び、組み合わせや表し方を考える。</p> <p>○ つくりたいイメージに合わせて、材料や用具を選び、工夫してつくる。</p>	<p>○ 途中でつくりたいものが変わってもよいことを伝える。 * 児童の思いに寄り添い、相談に乗ったり一緒に考えたりしながら、表したいことを自分で見つけられるように支援していく。 * 参考となる作品を用意しておき、表現のヒントが得られるようにする。</p> <p>○ 材料コーナーには、雨にぬれても大丈夫な材料を用意しておき、自分で材料を選択して組み合わせなど工夫できるようにしておく。 * 比較的扱いやすい材料を用意し、細かい作業が困難になりすぎないように配慮する。 * 困っていることに共感しながら、どうすればうまくできるか一緒に考え、自分で解決できるように支援していく。</p> <p>○ 個々の活動を見守りながら、励ましたりほめたり、自信につながる声かけを積極的に行う。</p>	<p>アー① 児童の観察 (表情・反応・つぶやき・取り組む態度)</p> <p>ウー① 活動の様子・対話・つくりつつある作品</p>
<p>3 本時の学習のまとめをする。</p> <p>○ 活動のふりかえりをし、次時の活動の見通しを持つ。</p> <p>○ 後片付けをする。</p>	<p>○ 題材に向かう姿勢やていねいにつくる態度などもしっかり認めて、評価する。</p>	